

## Press Release #12

2011年7月10日



【本件に関するお問い合わせ先】  
社団法人日本アメリカンフットボール協会  
〒140-0001 東京都品川区北品川1-16-1  
舟正ビル2F  
TEL.03-3450-9360 FAX.03-3450-9361  
E-mail: press@americanfootball.jp  
Web: http://americanfootball.jp

報道各位

### 第4回世界選手権 オーストリア大会 日本代表 地元オーストリア相手に快勝スタート

第4回 世界選手権グループBの開幕戦となった地元オーストリアと日本の一戦は、7月9日(土) グラーツのUPCアリーナで午後3時にキックオフとなり、日本代表が24対6で快勝スタートをきった。日本対オーストリア戦の詳細は3ページ目をご覧ください。

続いて行われた同じグループBのカナダ対フランスは、45対10とカナダが大差でフランスを下した。  
一方、一日早く8日(金)に開幕を迎えたグループAはアメリカが大差でオーストラリアを破り、メキシコがドイツを相手に接戦を制した。

#### ■試合結果

##### 【グループB】

7月9日(土)

Team	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
日本	0	17	0	7	27
オーストリア	0	6	0	0	6

カナダ	7	17	7	14	45
フランス	7	3	0	0	10

日本1勝、カナダ1勝、オーストリア1敗、フランス1敗

##### 【グループA】

7月8日(金)

Team	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
アメリカ	13	21	13	14	61
オーストラリア	0	0	0	0	0

ドイツ	0	7	0	8	15
メキシコ	7	3	2	10	22

アメリカ1勝、メキシコ1勝、オーストラリア1敗、ドイツ1敗

#### ■ 関連ウェブサイト(情報の詳細は下記HPでご確認ください)

- 大会公式サイト(英語) <http://www.americanfootball2011.com/en/>  
大会公式サイト(日本語) <http://www.americanfootball.jp/wc2011/>  
日本代表公式サイト <http://www.americanfootball.jp/japan/>  
日本協会公式サイト <http://www.americanfootball.jp/main/>

## ■ 第4回アメリカンフットボール世界選手権オーストリア大会 2011 大会概要

名称 第4回アメリカンフットボール世界選手権オーストリア大会 2011  
The Fourth World Championship of American Football, Austria 2011  
(略号:SWC2011=Senior World Championship 2011)

主催 IFAF [International Federation of American Football (国際アメリカンフットボール連盟)]  
American Football Bund Oesterreich (オーストリア・アメリカンフットボール連盟)

期間 2011年7月8日(金)~7月16日(土)

出場国 8カ国が下記2グループに分かれてのリーグ戦を経て、同順位同士による順位決定戦を戦います。

【グループA】	【グループB】
アメリカ合衆国(前回優勝)	オーストリア(欧州選手権3位・開催国)
ドイツ(欧州選手権優勝)	フランス(欧州選手権準優勝)
オーストラリア(オセアニア代表)	日本(アジア代表)
メキシコ(アメリカ大陸代表)	カナダ(アメリカ大陸代表)

### 試合スケジュール

7月 8日(金)	① アメリカ×オーストラリア	② ドイツ×メキシコ	@インスブルック
7月 9日(土)	① オーストリア×日本	② フランス×カナダ	@グラーツ
7月 10日(日)	① メキシコ×オーストラリア	② ドイツ×アメリカ	@インスブルック
7月 11日(月)	① 日本×フランス	② カナダ×オーストリア	@グラーツ
7月 12日(火)	① オーストラリア×ドイツ	② アメリカ×メキシコ	@インスブルック
7月 13日(水)	① カナダ×日本	② オーストリア×フランス	@グラーツ
7月 15日(金)	① 7位決定戦	② 3位決定戦	@ウィーン
7月 16日(土)	① 5位決定戦	② 優勝決定戦	@ウィーン

\* 試合開始時刻 第1試合:15時開始 第2試合:19時開始(現地時間)

\* 試合会場  
インスブルック Tivoli Stadion(収容人数 16,000人)  
グラーツ UPC Arena(収容人数 15,400人)  
ウィーン Ernst Happel Stadion(収容人数 50,800人)

WC2011公式サイト <http://www.americanfootball2011.com/en/>

### 【これまでの「アメリカンフットボール世界選手権」について】

第1回大会は、1999年イタリア・パレルモにおいて開催。その後、第2回大会が2003年ドイツ・フランクフルト、第3回大会が2007年日本・川崎市にて開催された。日本は第1回、第2回にて連続優勝し、第3回では準優勝。なお、第3回よりこの競技の母国であるアメリカが出場し、優勝を飾った。

詳細は大会公式ホームページ(日本語) [過去の大会]をご参照ください。

### 【IFAFについて】



#### 国際アメリカンフットボール連盟

IFAF(International Federation of American Football=Tommy Wiking 理事長)は、1998年に創立、翌99年イタリアのシシリー島パレルモ市に6カ国が集って第1回世界選手権大会が開催され、過去3大会を通じて世界各地で加盟国の輪を広げてきた。

設立当初25カ国だったIFAFは、現在PAFAF(環太平洋連盟16カ国)、EFAF(欧州連盟32)、AFAF(アジア連盟5)、OFAF(オセアニア連盟3)の4地区が加盟し、今春これに加えてナイジェリアを起点とした待望のアフリカ大陸連盟が創立、59カ国が参加する組織としてその規模を拡大している。

IFAF公式サイト:<http://www.ifaf.info/>

## 森ジャパン快勝スタート

### キッキングゲームと速効でオーストリアを寄せ付けず

SWC グループ B の開幕戦となったオーストリア対日本の一戦は、7月 9 日(土)UPC アレーナで午後3時のキックオフとなり、日本代表が 24 対 6 で快勝スタートを切った。

日本代表の森清之ヘッドコーチは、「フットボールは攻撃、守備、そしてキッキングゲームの三つの部隊で戦うゲーム。その意味でそれぞれのパートが力を発揮して、総合力で勝利することができた。オーストリアは規律のとれたタフなチームだったが、この一戦に勝利するための準備をキチンと発揮して勝てたことが大きいと思う」と安堵混じり口調だった。

立ち上がりの攻撃でFGをブロックされ、第 2Q3 分過ぎに先制FGを許す展開となった。しかし、浮足立つことなく即座に反撃。続くキックオフリターンで WR 前田(鹿島)が敵陣 48 ヤードまで返し、QB 高田(パナソニック)のスクランブルで敵陣 31 ヤードに迫ると、学生界から唯一選出の RB 末吉(早稲田大)がカウンターランで TD。キックオフを含め、わずか 3 プレーで逆転に成功した。

続く攻撃もオーストリア QB グロースのパスを CB 加藤(鹿島)がインターセプトで仕留めて攻撃権を獲得。敵陣 27 ヤードまでリターンした後の4プレー目。今度は FG 体型から K に入った RB 丸太(鹿島)がホルダーからボールトスを受けて右オーブンを駆け抜けるトリックプレーで7ヤードの TD ランに結び付けて 14 対 3 突き放した。

オーストリア攻撃は日本代表守備の深くかまえた守備バックのクッションを突いたパスを連続して前進を図ったものの、日本代表は確実なタックルで応戦。前半終了 32 秒前に追加 FG を許したが、今度は WR 木下(オービック)が敵陣 42 ヤードまでキックオフを返し、4 プレー後に K 青木による 47 ヤード FG で 17 対 6 と突き放した。

前半終了時点の総攻撃獲得距離比較で 82 ヤード対 169 ヤード、ダウン更新5回対 11 回、ボール所要時間では6分 15 秒対 17 分 45 秒と大きく上回

られて一見は苦戦内容に見えたものの、2TD1FG 対 2FG と日本代表の速効と粘り強い守備、そして効率的なキッキングゲームなどの巧者ぶりが光った。

後半に入ると日本代表守備が前半と一転して、守備バックがタイト・カバレッジを展開。CB 加藤が後半折り返し早々に、この日 2 度目のインターセプトでオーストリア攻撃を断つ殊勲のプレーもあって、前半 14 回中9回のパス成功をおさめていたオーストリア攻撃は後半 11 回投げて 4 回成功にペースダウン。日本代表攻撃の執拗なラン攻撃に、時間とスタミナを奪われて、防戦一方となつた。

日本代表攻撃は後半フィールドポジションに恵まれず、第 3Q は無得点のまま終了したが、第 4Q、2 度目の攻撃で 6 プレー47 ヤードの TD ドライブを展開。QB 高田から代わった東野(アサヒビール)が WR 長谷川(パナソニック)への 20 ヤードポストでゴール前 11 ヤードに迫ると、右ロールから RB 末吉に投じたショベルパスで末吉が好走して TD。残り 6 分、24 対 6 とダメを押す展開となつた。

前半統計で大きく上回られた日本代表だったが、後半は 144 ヤード対 55 ヤード、ダウン更新も 10 回対 3 回と大きく逆転した。「我々はこの一戦に 4 年間を費やして準備してきたが、国際ゲームの難しさを思い知らされた思いだ。この結果は我々のプロセスとして受け入れねばならないが、カナダとの一戦に向けて、再度調整して臨むつもりだ」とオーストリア代表のリック・ローズ HC。意気消沈した雰囲気は無く、「次のカナダ戦に向けた勝機を探っていきたい」としていた。

## 試合の記録

2011/07/09(土) 15:00~17:16 @UPC アリーナ  
天候:晴れ 観衆:6,500名

オーストリア	0	6	0	0	=	6
日本	0	17	0	7	=	24

### 【得点経過】

2Q 08:56	オーストリア	FG	クラムベアガー23ヤード	0—3
06:23	日本	TD	末吉 31 ヤードラン(青木キック)	7—3
04:22	日本	TD	丸田 7 ヤードラン(青木キック)	14—3
00:32	オーストリア	FG	クラムベアガー31ヤード	14—6
00:02	日本	FG	青木 47 ヤード	17—6
4Q 06:13	日本	TD	東野—末吉 6 ヤードパス(青木キック)	24—6

### 【チーム記録】

	日本	オーストリア
得点	24	6
第1ダウン	15	14
ラッシュ	31—149	22—71
パッシング	117	153
回数-成功-INT	19-11-0	25-13-2
総攻撃獲得距離	51-266	47-224
ファンブル-リターンヤード	0-0	0-0
パントリターン 1-3	0-0	
キックオフリターン	3-135	3-50
インターフリトリターン	2-34	0-0
パント回数-平均	2-44.0	4-34.8
ファンブル-ロスト	0-0	1-0
反則-罰退距離 4-40	3-30	
ボール所要時間	18分29秒	24分13秒
第3ダウン効率11回中6回	10回中4回	
第4ダウン効率1回中1回	0回	
レッドゾーンスコア効率	3回中2回	2回中2回

### 【オーストリア代表スターティングメンバー】

#### [攻撃]

QB	8	クリストフ・グロース
RB	26	フリーリアン・グライン
RB/TE	23	フローリン・ヒース
WR	1	ヤコブ・ディーピリンガー
WR	15	アーマンドー・ポンセ・デ・レオン
TE/WR	88	アンドレス・プレーラー
OL	70	ミヒヤエル・ハベティン
OL	79	バレンティン・グルーバー
OL	78	トーマス・ティッポルト
OL	66	ペアンド・ライツォーニ
OL	75	アレクサンダー・ミラノビック
K	2	ペーター・クラムベアガー

[守備]

DL	99	ヨハネス・カイン
DL	92	アーミン・ノフィディ
DL	89	ローマン・メクラウ
DL/LB	47	ミヒヤエル・ズース
LB	58	フローリアン・ヒューター
LB	55	クリストフ・シュリッヒャー
LB	49	ジモン・ブラッハ
DB	9	ペーター・トゥッチ
DB	7	ヨハネス・ノイサー
DB	28	クリストフ・プツツ
DB	21	マークス・クラウゼ
P	2	ペーター・クラムベアガー

【日本代表スタートメンバー】

[攻撃]

QB	8	高田 鉄男	パナソニックインパルス
RB	20	古谷 拓也	オービックシーガルズ
WR	1	木下 典明	オービックシーガルズ
WR	7	長谷川昌泳	パナソニックインパルス
WR	17	小川 道洋	IBM ビッグブルー
TE	87	大矢 祐嗣	富士通フロンティアーズ
OL	67	村井 雄太	鹿島ディアーズ
OL	72	村上 崇就	IBM ビッグブルー
OL	73	谷口 祐二	パナソニックインパルス
OL	75	宮本 士	オービックシーガルズ
OL	77	平本 晴久	元アサヒ飲料チャレンジャーズ
K	29	丸田 泰裕	鹿島ディアーズ

[守備]

DL	13	山中 正喜	パナソニックインパルス
DL	53	平井 基之	富士通フロンティアーズ
DL	92	西川 岳志	鹿島ディアーズ
DL	93	紀平 充則	オービックシーガルズ
LB	2	古庄 直樹	オービックシーガルズ
LB	9	塚田 昌克	オービックシーガルズ
LB	45	鈴木將一郎	富士通フロンティアーズ
DB	14	藤本 将司	オービックシーガルズ
DB	16	三宅 剛司	オービックシーガルズ
DB	21	加藤 公基	鹿島ディアーズ
DB	24	佐野 忠也	鹿島ディアーズ
P	2	青木 大介	鹿島ディアーズ